

## [令和4年度財務諸表等]

### Ⅲ 財務諸表等

#### 1. 貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	674,619	575,758	98,861
預 金	125,938,092	134,697,645	△ 8,759,553
未収金	858,165	580,800	277,365
立替金	184,800	0	184,800
前払費用	8,062,252	8,062,252	0
流動資産合計	135,717,928	143,916,455	△ 8,198,527
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	153,882,116	68,702,305	85,179,811
投資有価証券	761,791,564	846,971,375	△ 85,179,811
差入保証金	84,326,320	84,326,320	0
基本財産合計	1,000,000,000	1,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	173,183,007	156,150,228	17,032,779
学術出版・調査研究積立基金資産	246,201,855	174,201,855	72,000,000
特定資産合計	419,384,862	330,352,083	89,032,779
(3) その他の固定資産			
設 備	81,954,145	89,403,541	△ 7,449,396
備 品	14,010,935	16,157,458	△ 2,146,523
リース資産	3,341,140	3,247,068	94,072
ソフトウェア	674,484	787,564	△ 113,080
その他の固定資産合計	99,980,704	109,595,631	△ 9,614,927
固定資産合計	1,519,365,566	1,439,947,714	79,417,852
資産合計	1,655,083,494	1,583,864,169	71,219,325

科 目	当年度	前年度	増減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	1,696,997	0	1,696,997
短期リース債務	947,892	764,016	183,876
預り金	2,563,076	2,141,237	421,839
賞与引当金	11,822,133	9,982,000	1,840,133
流動負債合計	17,030,098	12,887,253	4,142,845
2. 固定負債			
長期リース債務	2,393,248	2,483,052	△ 89,804
資産除去債務	45,185,220	45,158,512	26,708
退職給付引当金	173,183,007	156,150,228	17,032,779
固定負債合計	220,761,475	203,791,792	16,969,683
負債合計	237,791,573	216,679,045	21,112,528
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	246,201,855	174,201,855	72,000,000
(うち特定資産への充当額)	(246,201,855)	(174,201,855)	(72,000,000)
2. 一般正味財産	1,171,090,066	1,192,983,269	△ 21,893,203
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000,000)	(1,000,000,000)	( 0)
正味財産合計	1,417,291,921	1,367,185,124	50,106,797
負債及び正味財産合計	1,655,083,494	1,583,864,169	71,219,325

## 2. 正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日～令和 5年 3月 31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
基本財産運用益	3,126,865	3,783,802	△ 656,937
特定資産(退職給付引当資産) 運用益	700,085	694,863	5,222
受取会費	165,870,000	165,870,000	0
日本証券業協会	127,640,000	127,640,000	0
日本取引所グループ	21,170,000	21,170,000	0
投資信託協会	17,060,000	17,060,000	0
受取研究会等負担金	5,000,000	5,000,000	0
日本証券業協会	5,000,000	5,000,000	0
受取研究調査費	5,445,308	6,726,207	△ 1,280,899
日本証券業協会	4,587,143	6,145,407	△ 1,558,264
日本取引所グループ	858,165	580,800	277,365
指定正味財産からの振替額	228,463,580	277,381,578	△ 48,917,998
受取一般寄付金	100,000	120,000	△ 20,000
刊行物収入	1,141,548	2,141,016	△ 999,468
複写料収入	82,320	93,220	△ 10,900
講演会関係収入	440,000	520,000	△ 80,000
流動資産運用収入	3,870	3,211	659
その他収入	1,052,916	0	1,052,916
經常収益計	411,426,492	462,333,897	△ 50,907,405

科 目	当年度	前年度	増 減
経常費用			
事業費	357,740,509	378,640,823	△ 20,900,314
役員報酬	25,397,536	24,665,774	731,762
給与手当	99,267,843	106,683,510	△ 7,415,667
退職給付費用(役員)	5,973,240	5,973,240	0
退職給付費用(職員)	7,967,278	8,950,637	△ 983,359
福利厚生費	17,210,817	17,972,194	△ 761,377
賃借料	92,744,344	92,864,281	△ 119,937
諸謝金	13,487,310	17,101,119	△ 3,613,809
原稿料	4,404,004	4,837,684	△ 433,680
図書費	15,694,280	13,644,312	2,049,968
情報提供整備費	4,794,512	9,231,233	△ 4,436,721
情報調査費	2,237,179	2,592,246	△ 355,067
什器備品費	110,160	52,723	57,437
印刷費	15,432,472	24,923,965	△ 9,491,493
複写費	1,397,990	1,578,098	△ 180,108
学会その他会費	2,114,000	2,114,000	0
会議費	6,376,001	7,013,282	△ 637,281
旅費交通費	3,966,010	1,023,964	2,942,046
通信運搬費	5,479,940	5,506,107	△ 26,167
設備減価償却費	6,465,678	6,465,678	0
備品減価償却費	3,454,034	4,643,904	△ 1,189,870
リース資産減価償却費	691,592	616,368	75,224
ソフトウェア減価償却費	44,000	0	44,000
事務機器関係費	3,415,824	828,016	2,587,808
消耗品費	1,275,285	708,573	566,712
修繕費	0	473,828	△ 473,828
賞与引当金繰入(役員)	2,996,000	2,996,000	0
賞与引当金繰入(職員)	15,045,400	14,956,200	89,200
雑費	297,780	223,887	73,893
管理費	75,342,143	65,618,382	9,723,761
役員報酬	11,213,046	11,213,046	0
給与手当	27,876,548	19,834,079	8,042,469
退職給付費用(役員)	2,559,960	2,559,960	0
退職給付費用(職員)	1,512,549	1,511,640	909
福利厚生費	5,732,516	5,049,390	683,126
賃借料	13,771,624	13,822,310	△ 50,686
諸謝金	1,398,075	1,174,984	223,091
租税公課	1,400	4,480	△ 3,080
情報提供整備費	118,192	578,402	△ 460,210
複写費	115,136	132,011	△ 16,875
学会その他会費	118,000	118,000	0
会議費	857,034	347,088	509,946
旅費交通費	388,376	117,340	271,036
通信運搬費	198,348	199,822	△ 1,474

科 目	当年度	前年度	増 減
設備減価償却費	983,718	983,718	0
備品減価償却費	579,950	987,872	△ 407,922
リース資産減価償却費	133,716	130,758	2,958
ソフトウェア減価償却費	201,080	197,450	3,630
委託費	727,100	706,200	20,900
事務機器関係費	1,118,210	303,867	814,343
消耗品費	539,009	409,783	129,226
修繕費	0	77,712	△ 77,712
賞与引当金繰入(役員)	1,284,000	1,284,000	0
賞与引当金繰入(職員)	3,410,066	3,258,467	151,599
雑費	504,490	616,003	△ 111,513
経常費用計	433,082,652	444,259,205	△ 11,176,553
当期経常増減額	△21,656,160	18,074,692	△ 39,730,852
経常外増減の部			
備品除却損	237,043	1	237,042
経常外費用計	237,043	1	237,042
当期経常外増減額	△ 237,043	△ 1	△ 237,042
当期一般正味財産増減額	△21,893,203	18,074,691	△ 39,967,894
一般正味財産期首残高	1,192,983,269	1,174,908,578	18,074,691
一般正味財産期末残高	1,171,090,066	1,192,983,269	△ 21,893,203
II 指定正味財産増減の部			
増加の部			
受取助成金等	300,463,580	300,253,580	210,000
受取助成金	298,012,000	297,802,000	210,000
資本市場振興財団	267,382,000	267,172,000	210,000
証券保管振替機構	1,000,000	1,000,000	0
日本証券金融	1,200,000	1,200,000	0
日本取引所グループ(大取)	27,530,000	27,530,000	0
金融先物取引業協会	300,000	300,000	0
日本投資顧問業協会	300,000	300,000	0
第二種金融商品取引業協会	300,000	300,000	0
受取特定寄付金	2,000,000	2,000,000	0
指定正味財産運用益	451,580	451,580	0
減少の部			
一般正味財産への振替額	228,463,580	277,381,578	△ 48,917,998
当期指定正味財産増減額	72,000,000	22,872,002	49,127,998
指定正味財産期首残高	174,201,855	151,329,853	22,872,002
指定正味財産期末残高	246,201,855	174,201,855	72,000,000
III 正味財産期末残高	1,417,291,921	1,367,185,124	50,106,797

## 正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 4月 1日～令和 5年 3月 31日

(単位:千円)

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部							
經常増減の部							
經常収益							
基本財産運用益				3,127	3,127		3,127
特定資産(退職給付引当資産)運用益						700	700
受取会費				82,935	82,935	82,935	165,870
日本証券業協会				63,820	63,820	63,820	127,640
日本取引所グループ				10,585	10,585	10,585	21,170
投資信託協会				8,530	8,530	8,530	17,060
受取研究会等負担金				5,000	5,000		5,000
日本証券業協会				5,000	5,000		5,000
受取研究調査費				5,445	5,445		5,445
日本証券業協会				4,587	4,587		4,587
日本取引所グループ				858	858		858
指定正味財産からの振替額				228,464	228,464		228,464
受取一般寄付金				50	50	50	100
刊行物収入				1,142	1,142		1,142
複写料収入				82	82		82
講演会関係収入				440	440		440
流動資産運用収入						4	4
その他収入				1,053	1,053		1,053
經常収益計	0	0	0	327,738	327,738	83,689	411,426

- (注) 1. 特定資産(退職給付引当資産)運用益は法人会計に充当する。  
 2. 受取会費は50%以上を公益事業、残余を法人会計に充当する。  
 3. 流動資産運用収入は法人会計に充当する。  
 4. 記載金額は、千円未満の端数を四捨五入して表示。

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
経常費用							
事業費	238,945	31,222	87,574		357,741		357,741
役員報酬	21,343	4,055	0		25,398		25,398
給与手当	70,620	7,747	20,901		99,268		99,268
退職給付費用	10,796	1,435	1,710		13,941		13,941
福利厚生費	13,521	1,143	2,547		17,211		17,211
賃借料	54,317	0	38,428		92,744		92,744
諸謝金	10,667	2,820	0		13,487		13,487
原稿料	3,983	421	0		4,404		4,404
図書費	1,512	0	14,182		15,694		15,694
印刷費	11,042	4,390	0		15,432		15,432
会議費	917	5,459	0		6,376		6,376
通信運搬費	4,013	1,111	356		5,480		5,480
賞与引当金繰入	14,297	1,198	2,547		18,041		18,041
その他事業費	21,917	1,444	6,903	0	30,264	0	30,264
管理費						75,342	75,342
役員報酬						11,213	11,213
給与手当						27,877	27,877
賃借料						13,772	13,772
その他管理費						22,481	22,481
経常費用計	238,945	31,222	87,574	0	357,741	75,342	433,083
当期経常増減額	△ 238,945	△ 31,222	△ 87,574	327,738	△ 30,003	8,347	△ 21,657
経常外収益計							0
経常外費用計	119	0	59	0	178	59	237
当期経常外増減額	△ 119	0	△ 59	0	△ 178	△ 59	△ 237
当期一般正味財産増減額							△21,893
一般正味財産期首残高							1,192,983
一般正味財産期末残高							1,171,090
II 指定正味財産増減の部							
増加の部							
受取助成金等							300,464
受取助成金							298,012
受取特定寄付金							2,000
指定正味財産運用益							452
減少の部							
一般正味財産への振替額							228,464
当期指定正味財産増減額							72,000
指定正味財産期首残高							174,202
指定正味財産期末残高							246,202
III 正味財産期末残高							1,417,292

(注). 事業費は全額、公益目的事業に係る費用である。

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・償却原価法によっている。

#### (2) 固定資産の減価償却について

##### ① 設備及び備品

法人税法に基づく定額法によっている。

##### ② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

##### ③ ソフトウェア

定額法によっている。なお、自社利用ソフトウェアについては、当研究所における利用可能期間(5年)に基づいている。

#### (3) 引当金の計上基準について

##### ① 賞与引当金

役職員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

##### ② 退職給付引当金

役職員に対する退職金の支払いに備えるため、期末退職金の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

#### (4) リース取引の処理方法

リース料総額300万円を超える所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

#### (5) 消費税の会計処理

税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
預金	68,702,305	135,607,550	50,427,739	153,882,116
投資有価証券	846,971,375	50,495,157	135,674,968	761,791,564
差入保証金	84,326,320	0	0	84,326,320
小 計	1,000,000,000	186,102,707	186,102,707	1,000,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	156,150,228	81,995,296	64,962,517	173,183,007
学術出版・調査研 究積立基金	174,201,855	72,057,710	57,710	246,201,855
小 計	330,352,083	154,053,006	65,020,227	419,384,862
合 計	1,330,352,083	340,155,713	251,122,934	1,419,384,862

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
預金	153,882,116	0	153,882,116	0
投資有価証券	761,791,564	0	761,791,564	0
差入保証金	84,326,320	0	84,326,320	0
小 計	1,000,000,000	0	1,000,000,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	173,183,007	0	0	173,183,007
学術出版・調査研 究積立基金	246,201,855	246,201,855	0	0
小 計	419,384,862	246,201,855	0	173,183,007
合 計	1,419,384,862	246,201,855	1,000,000,000	173,183,007

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設 備	109,657,228	27,703,083	81,954,145
備 品	44,210,151	30,199,216	14,010,935
リース資産	4,739,460	1,398,320	3,341,140
ソフトウェア	1,311,550	637,066	674,484
合 計	159,918,389	59,937,685	99,980,704

(注)備品の減価償却累計額は、一括償却資産の償却額を含む。

### 5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

### 6. 満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
#62利付国債ほか9銘柄	810,848,531	801,755,000	△ 9,093,531

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
受取助成金	資本市場振興財団	-	267,382,000	267,382,000	-	指定正味財産
〃	証券保管振替機構	-	1,000,000	1,000,000	-	〃
〃	日本証券業協会	-	1,200,000	1,200,000	-	〃
〃	日本取引所グループ	-	27,530,000	27,530,000	-	〃
〃	金融先物取引業協会	-	300,000	300,000	-	〃
〃	投資顧問業協会	-	300,000	300,000	-	〃
〃	第二種金融商品取引業協会	-	300,000	300,000	-	〃
合計		-	298,012,000	298,012,000	-	

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替	
受取助成金等の振替額	228,463,580
合計	228,463,580

9. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

10. 資産除去債務

(1) 資産除去債務の概要

事務室、図書館等について不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上している。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りに当たり、使用見込期間は15年、割引率は0.059%を採用している。

(3) 資産除去債務の総額の増減

当期首残高	45,158,512 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0 円
時の経過による調整額	26,708 円
資産除去債務の履行による減少額	0 円
当期末残高	45,185,220 円

11. 重要な後発事象

該当なし。

## 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略する。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	9,982,000	11,822,133	9,982,000	0	11,822,133
退職給付引当金	156,150,228	17,142,347	109,568	0	173,183,007

### 3. 財 産 目 録

令和 5年 3月 31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額 (円)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手元保管	運転資金として	674,619
普通預金	みずほ銀行兜町支店	〃	107,018,361
〃	〃	科学研究事業分担預り金として	0
〃	りそな銀行北浜支店	運転資金として	14,832,315
〃	東京証券信用組合	〃	11,936
通常貯金	ゆうちょ銀行(北浜)	〃	577,907
振替口座	ゆうちょ銀行(日本橋)	〃	3,497,573
未収金			858,165
立替金			184,800
前払費用			8,062,252
流動資産合計			135,717,928
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	みずほ銀行兜町支店	公益目的保有財産であり、運用益	151,619,797
定期預金	東京証券信用組合	を公益目的事業共用の財源として	2,262,319
投資有価証券	第62回利付国債ほか	使用している	761,791,564
差入保証金	太陽生命日本橋ビルほか	公益目的保有財産であり、研究室等に使用する借室の保証金である	84,326,320
基本財産合計			1,000,000,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	有価証券ほか 公社債投資信託ほか	役職員の退職給付引当金見合の引当資産として管理している	173,183,007
学術出版・調査研究積立基金資産	有価証券ほか 第62回利付国債ほか	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業共用の財源として使用している	246,201,855
特定資産合計			419,384,862

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額(円)
(3) その他の固定資産			
設 備	東京・大阪	公益目的事業及び法人管理運営 に使用している	81,954,145
備 品	東京・大阪	〃	14,010,935
リース資産	東京	公益目的事業及び法人管理運営 に使用している	3,341,140
ソフトウェア	東京	法人管理運営に使用している	674,484
その他の固定資産合計			99,980,704
固定資産合計			1,519,365,566
資産合計			1,655,083,494
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用		賞与引当金に対応する事業主負担 の社会保険料相当額。	1,696,997
短期リース債務		複写機リース料	947,892
預り金	源泉所得税	給与等に係る源泉所得税	2,563,076
賞与引当金		役職員に対する賞与の翌期支払い に備えるための引当金である。	11,822,133
流動負債合計			17,030,098
2. 固定負債			
長期リース債務		複写機リース料	2,393,248
資産除去債務		原状回復義務履行に備えるため の見積撤去・回復費用である。	45,185,220
退職給付引当金		役職員に対する退職金の支払い に備えるための引当金である	173,183,007
固定負債合計			220,761,475
負債合計			237,791,573
正味財産合計			1,417,291,921

## 独立監査人の監査報告書

令和5年5月10日

公益財団法人 日本証券経済研究所  
理事長 増井 喜一郎 殿

みおぎ監査法人  
東京都千代田区  
指定社員  
業務執行社員

公認会計士

渡邊健悟

### <財務諸表等監査>

#### 監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の貸借対照表、損益計算書(公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益(正味財産増減)の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との

間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項

に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### <財産目録に対する意見>

##### 財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和5年3月31日現在の令和4年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

##### 財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

##### 財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

##### 利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査報告書

令和5年5月18日

公益財団法人 日本証券経済研究所  
理事長 増井喜一郎 殿

監事 小林正浩 

監事 丸山雅彦 

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの第63期事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要なりん議書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、また、みおぎ監査法人から監査の実施状況及びその結果について報告を受け、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2. 監査意見

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上